

環境活動実績

ニチレイグループでは、さまざまな施策を講じて環境負荷の低減に取り組んでいます。次ページより、その取り組み状況について、2002年度の成果を中心にご報告します。

最終処分廃棄物の削減活動 p20

資源の有効利用、廃棄物排出による環境負荷低減のための最終処分廃棄物の削減活動について、その削減目標、実績、取り組み内容についてご報告します。

地球温暖化防止活動 p22

地球温暖化の原因となるCO₂の排出削減を目指した省エネルギーとともに、オゾン層破壊物質でもあるフロン対策にも取り組んでいます。ここでは、排出削減目標、実績、取り組み内容についてご報告します。

環境に配慮した容器包装使用など p24

事業活動の中で実施した省資源や環境負荷低減に向けた取り組みについて、商品の容器包装重量の削減を中心にご報告します。

環境に影響を与える関連化学物質対応 p26

ダイオキシンの発生防止に向けた施策やPCBの管理状況など、環境や人体に影響を及ぼす化学物質に対する取り組み状況についてご報告します。

グリーン購入 p27

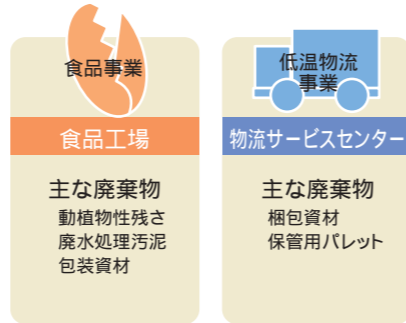
環境負荷の少ない物品を積極的に購入するグリーン購入に関して、購入のためのガイドラインと購入実績、その他の取り組み状況についてご報告します。

社会貢献活動 p28

社会の継続的な発展に貢献するための活動のうち、地域社会の環境美化活動をはじめ、参加・協力しているさまざまな環境保全活動についてご報告します。

最終処分廃棄物の削減活動

ニチレイグループの食品工場から排出される主な廃棄物は、製造過程で発生する動植物性残さ、廃水を浄化する過程で発生する汚泥、食材を梱包している包装資材です。また物流サービスセンターから排出される主な廃棄物は、お客様の商品の保管、仕分け、配送などの過程で不要になった段ボールなどの梱包資材、パレットなどの廃材です。ニチレイグループでは、これら廃棄物の削減・リサイクル推進に取り組んでいます。

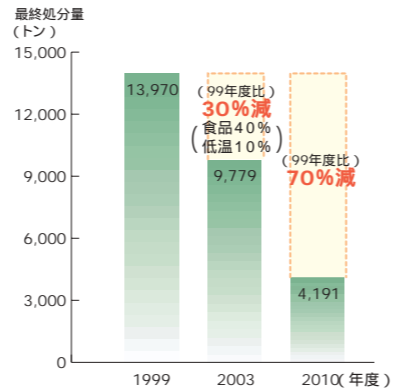


取り組み目標

ニチレイグループの主要事業である、食品事業および低温物流事業については、最終処分廃棄物量(事業所外に排出される廃棄物のうち直接処分場に埋め立てられる廃棄物の処分量+外部で焼却される廃棄物の量)の削減をグループの目標として掲げています。

- ① 食品事業から排出される廃棄物量は、低温物流事業から排出される量の約3倍
 - ② 1事業所当たりの排出量が多いのは、食品工場
- という特徴があることから、食品事業での達成目標をより高く設定しています。また、各事業とも排出量の多い上位3種の廃棄物を重点廃棄物に設定し、その削減に取り組んでいます。
- 最終処分量を削減するためには、発生量抑制、事業所外排出物のリサイクル(熱利用等への利用を含む)が必要となります。

ニチレイグループ全体の削減目標(2010年度まで)



2002年度の実績

2002年度末時点での対象事業所における廃棄物の最終処分量は、1999年度比29.3%の削減となり、2003年度末目標の30%削減目標の達成に大きく近づくことができました。事業別の内訳としては、食品事業は廃水処理汚泥の排出削減・リサイクル、プラスチック類のリサイクルなどを進め1999年度比40.5%削減となり、2003年度末目標を前倒して達成す

ることができました。2003年度も、2010年度目標の達成に向けてさらなる削減に努めていきます。また、低温物流事業でもパレットの樹脂化に伴う木材パレット廃材の一時的な排出増が見られるものの、紙・段ボール類、プラスチック類のリサイクルが進んだことから、1999年度比6.5%の削減となり、目標である10%削減に向け大きく前進しました。

食品工場での取り組み事例

生ごみのリサイクルに取り組んでいます。技術開発センターでは処理装置を用いて発酵乾燥処理し、堆肥や飼料に有効活用する方法について実証試験を行っています。また、(株)ニチレイフーズ白石工場、(株)マンヨー食品などの食品工場においても同様の装置を導入し、廃棄物のリサイクルに向けた取り組みを開始しました。

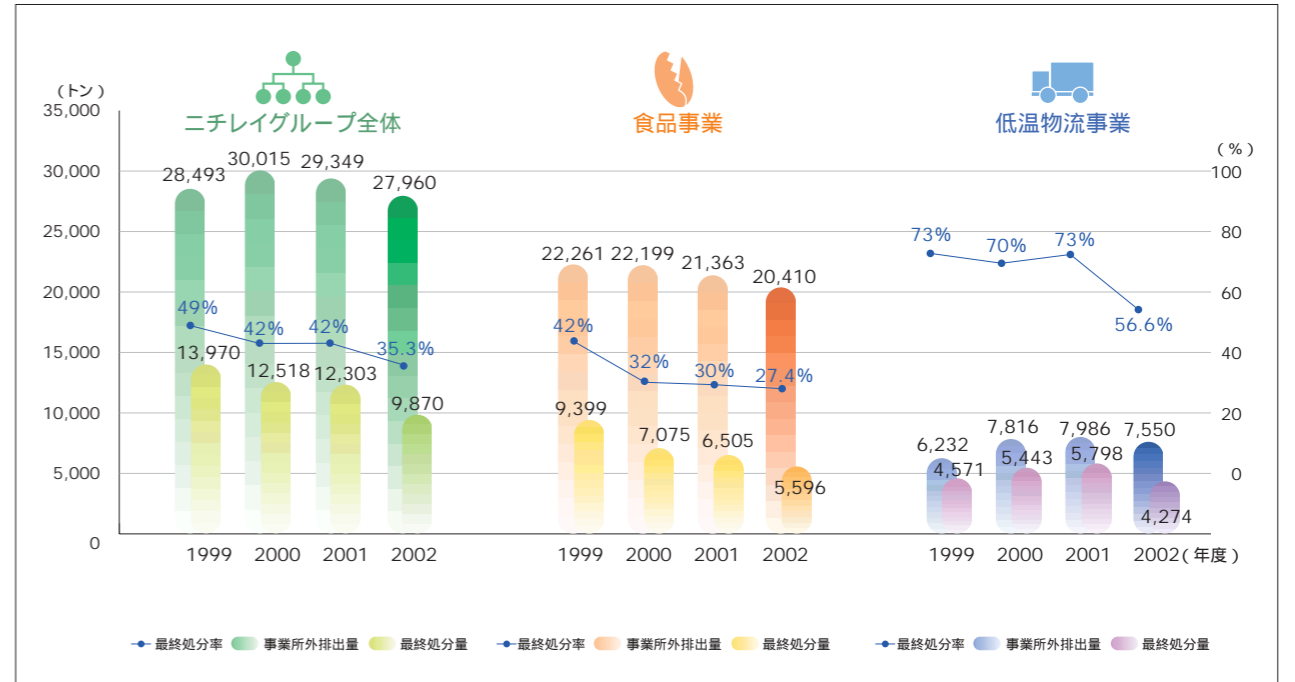


物流サービスセンターでの取り組み事例

低温物流事業において主要廃棄物となっている保管用パレットの廃材を削減するために、木製パレットから樹脂パレットへの移行を進めています。樹脂パレットは耐用年数が15年以上(木製は3~5年)と長く、衛生・品質面にも優れることから、総パレット数71万枚のうち、2004年度末までに30万枚を樹脂パレットへ移行する予定です。

樹脂パレットの導入数		保有枚数
計画開始前		12万6000枚
↓ 2002年度	5万1000枚導入	17万7000枚
↓ 2003年度	7万6000枚導入	25万3000枚
2004年度目標		30万枚

廃棄物の処理状況



事業所	事業所外排出量(トン)	最終処分量(トン)	最終処分率(%)	1999年度比削減率(%)	
				事業所外排出量	最終処分量
ニチレイグループ全体	27,960	9,870	35.3	1.9	29.3
食品事業	20,410	5,596	27.4	8.3	40.5
低温物流事業	7,550	4,274	56.6	21.1	6.5

食品事業

種類	1999年度		2000年度		2001年度		2002年度		1999年度比削減率(%)	
	事業所外排出量	最終処分量	事業所外排出量	最終処分量	事業所外排出量	最終処分量	事業所外排出量	最終処分量	事業所外排出量	最終処分量
動植物性残さ	7,984	3,677	8,540	2,168	7,602	1,282	8,175	1,477	2.4	59.8
廃水処理汚泥	7,664	3,031	7,054	2,637	6,090	2,361	5,212	1,619	32.0	46.6
紙・段ボール類	2,960	1,242	2,728	662	2,874	572	2,655	523	10.3	57.9
上記重点廃棄物計	18,608	7,950	18,322	5,467	16,566	4,215	16,042	3,619	13.8	54.5
その他	3,653	1,449	3,877	1,608	4,797	2,290	4,368	1,977	19.6	36.4
合計	22,261	9,399	22,199	7,075	21,363	6,505	20,410	5,596	8.3	40.5

低温物流事業

種類	1999年度		2000年度		2001年度		2002年度		1999年度比削減率(%)	
	事業所外排出量	最終処分量	事業所外排出量	最終処分量	事業所外排出量	最終処分量	事業所外排出量	最終処分量	事業所外排出量	最終処分量
動植物性残さ	944	906	1,026	806	913	769	784	753	16.9	16.9
紙・段ボール類	1,863	1,514	2,801	1,622	2,842	1,968	2,812	1,342	50.9	11.4
木屑	1,323	573	1,197	615	1,590	801	1,688	1,069	27.6	86.6
上記重点廃棄物計	4,130	2,993	5,024	3,043	5,345	3,538	5,284	3,164	27.9	5.7
その他	2,102	1,578	2,792	2,400	2,641	2,260	2,266	1,110	7.8	29.7
合計	6,232	4,571	7,816	5,443	7,986	5,798	7,550	4,274	21.1	6.5

事業所外排出量は事業所で発生した廃棄物のうち事業所外へ排出されたものです。リサイクルを実施していると推定されるものでも、確認のとれていないものはリサイクル計上していません。